

令和4年度 健康保険組合 決算見込と今後の財政見通しについて
(概要版)

令和5年9月14日
健康保険組合連合会

I. 令和4年度決算見込 (1,383 組合)

- 令和4年度決算見込は1,365億円の黒字。収支は前年に比べ+2,212億円改善したものの、全体の4割(559組合)が依然赤字。
- 保険料収入は対前年度比+2.7%(+2,239億円)の増加。一方、保険給付費が+5.7%(+2,431億円)と収入を上回り大きく増加したが、拠出金が▲6.7%(▲2,458億円)と大きく減少し、保険給付費の増加分を相殺。
- 拠出金の大幅な減少は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う高齢者医療費の減少により、4年度概算額が▲1.9%減少するとともに、2年度分の精算額が1,445億円の返還となったことによる、4年度限りの一時的なもの。

- 標準報酬月額は+1.4%増の38万2,924円、標準賞与額は+5.1%増の122万385円。なお、新型コロナウイルス感染拡大前の対元年度比では月額+1.3%、賞与額+3.4%。
- 平均保険料率は+0.03p増の9.26%。実質保険料率は▲0.23p減の9.12%
- 保健事業費は+0.5%増の3,715億円。対元年度比では+2.3%の伸び。
- 平均介護保険料率は+0.01ポイント増の1.78%。被保険者1人当たり保険料負担額は+1.7%増の11万7,791円。

II. 今後の財政見通しについて (* 最近の動向を踏まえた推計)

- 令和4年度は、高齢者拠出金の一時的な減少により収支は改善したが、直近5年4月～6月の医療費(3ヵ月平均+6.2%)は、4年度(年度平均+6.5%)に引き続き高い水準で推移しており、今後の動向を慎重に見極める必要がある。
- 令和5年度は、高齢者拠出金が4年度の一時的な拠出金減少の反動により、前年度比+2,500億円(+7.2%)と急激に増加。保険給付費の高い伸びも影響し、収支は▲3,600億円と再び赤字に転じ、6年度以降、毎年増加する拠出金によりさらなる財政悪化が見込まれる。

令和4年度決算見込と5年度の財政見通し

	令和3年度【決算】	令和4年度【決算見込】	令和5年度【推計】
経常収入計①	8兆3,827億円	8兆6,058億円(+2.7%)	8兆7,700億円(+2.0%)
保険料収入	8兆2,651億円	8兆4,890億円(+2.7%)	8兆6,600億円(+2.0%)
経常支出計②	8兆4,674億円	8兆4,693億円(+0.0%)	9兆1,300億円(+7.8%)
保険給付費	4兆2,472億円	4兆4,903億円(+5.7%)	4兆7,900億円(+6.6%)
高齢者拠出金	3兆6,515億円	3兆4,057億円(▲6.7%)	3兆6,500億円(+7.2%)
保健事業費	3,698億円	3,715億円(+0.5%)	4,600億円
経常収支差引額(①-②)	▲847億円	1,365億円	▲3,600億円
平均保険料率	9.23%	9.26%	9.27%
実質保険料率	9.35%	9.12%	9.66%

* 5年度財政の推計方法等、詳細については別紙「今後の財政見通しについて」を参照のこと。

今後の財政見通しについて（*最近の動向を踏まえた推計）

- 令和4年度は、高齢者拠出金の一時的な減少により収支は改善したが、直近5年4月～6月の医療費（3ヵ月平均：6.2%）は、4年度（年度平均：6.5%）に引き続き高い水準で推移しており、今後の動向を慎重に見極める必要がある。
- 令和5年度は、高齢者拠出金が4年度の一時的な拠出金減少の反動により、前年度比+2,500億円（+7.2%）と急激に増加。保険給付費の高い伸びも影響し、収支は▲3,600億円と再び赤字に転じ、6年度以降、毎年増加する拠出金によりさらなる財政悪化が見込まれる。

	令和3年度【決算】	令和4年度【決算見込】	令和5年度【推計】	令和5年度【予算】
経常収入計①	8兆3,827億円	8兆6,058億円（R3比+2.7%）	8兆7,700億円（R4比+2.0%）	8兆6,161億円
保険料収入	8兆2,651億円	8兆4,890億円（+2.7%）	8兆6,600億円（+2.0%）	8兆5,038億円
その他	1,176億円	1,168億円	1,100億円	1,123億円
経常支出計②	8兆4,674億円	8兆4,693億円（+0.0%）	9兆1,300億円（+7.8%）	9兆1,784億円
保険給付費	4兆2,472億円	4兆4,903億円（+5.7%）	4兆7,900億円（+6.6%）	4兆7,820億円
高齢者拠出金	3兆6,515億円	3兆4,057億円（▲6.7%）	3兆6,500億円（+7.2%）	3兆7,067億円
保健事業費	3,698億円	3,715億円（+0.5%）	4,600億円	4,580億円
その他	1,989億円	2,019億円	2,300億円	2,317億円
経常収支差引額（①－②）	▲847億円	1,365億円	▲3,600億円	▲5,623億円
平均保険料率	9.23%	9.26%	9.27%	9.27%
実質保険料率	9.35%	9.12%	9.66%	10.10%

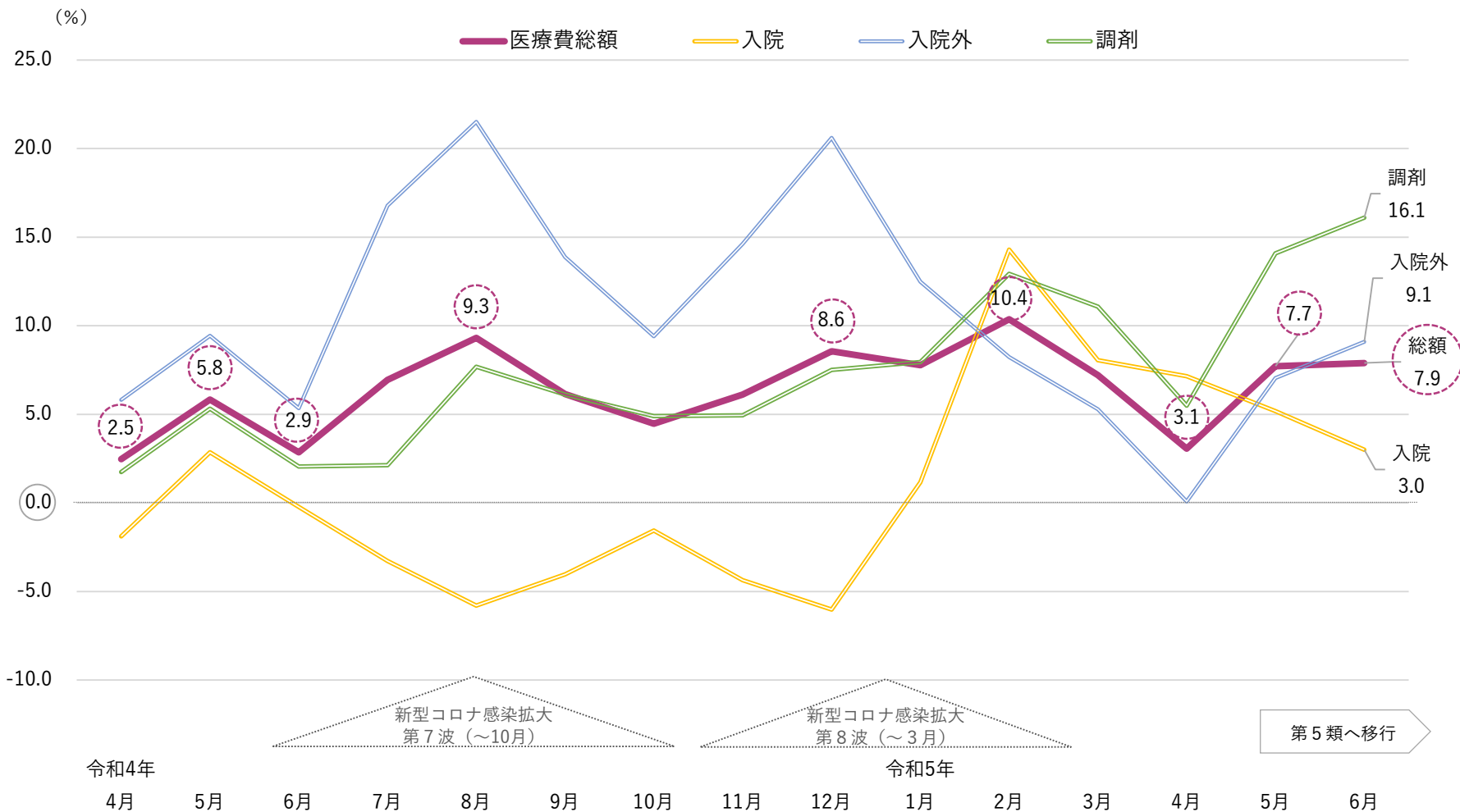
注）平均保険料率及び実質保険料率には調整保険料率を含む。

<令和5年度財政の推計方法について>

1. 保険料収入：5年度の総報酬額を対前年度比伸び率+1.8%（平均標準報酬月額+1.5%、平均標準賞与額+1.9%）と仮定し、これに5年度予算の平均保険料率を乗じて算出した。なお、総報酬額の基礎となる「年間標準報酬月額」及び「年間標準賞与額」の推計方法は以下のとおり。
2. 年間標準報酬月額：「組合管掌健康保険事業状況報告」（以下、「月報」）の直近5年4-6月の実績値をもとに、▽4-8月：4-6月の対前年同月比伸び率の平均1.3%、▽9-3月：「毎月勤労統計」（厚生労働省）により5年9月改定率を1.7%と仮定して試算した。
3. 年間標準賞与額：4年度の年間標準賞与額に占める4-6月の標準賞与額の比率をもとに5年4-6月の標準賞与額をベースに試算した。
4. その他：5年度予算と同額とした。
5. 保険給付費：支払基金「診療報酬等請求内訳書等データ（健保組合分）」の直近5年4-6月診療分における「診療報酬にかかる請求額」（法定給付費）の対前年同月比伸び率の平均6.6%を年度計の伸び率と仮定し、4年度決算の保険給付費総額にこれを乗じて算出した。
6. 高齢者拠出金：支払基金納付通知額である。
7. 保健事業費、その他：5年度予算と同額とした。

【参考①】 健保組合医療費の動向：令和4年4月～5年6月

健保組合医療費の動向
令和4年4月～5年6月診療分 対前年同月比伸び率の月別推移 (%)



※ 社会保険診療報酬支払基金「診療報酬等請求内訳書等データ」をもとに健保組合全件分を集計したものである。電算処理レセプト（電子レセプト）のほか、紙媒体レセプトを含め、全レセプトを対象とした再審査分等調整後の確定ベースの数値である。医療費総額には、医科（入院・入院外）、歯科（入院・入院外）及び調剤費のほか、入院時食事療養費・入院時生活療養費及び訪問看護療養費の費用額が含まれている。

【補足資料】令和4年度高齢者拠出金の一時的な減少について

令和4年度の拠出金が対前年度比▲6.7%（▲2,458億円）と大きく減少した要因は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う令和2年度の高齢者医療費等の減少により、4年度の高齢者拠出金（概算額と2年前の精算額の合計）が、▽【概算額】については、令和4年度分の【①概算額】が対前年度比▲1.9%（684億円）の減少となり、▽【精算額】については、令和2年度分の【②精算額】が▲1,445億円の「返還」と、令和元年度分の【②精算額】が330億円の「追徴」により差引▲1,775億円減少したことによるもの。

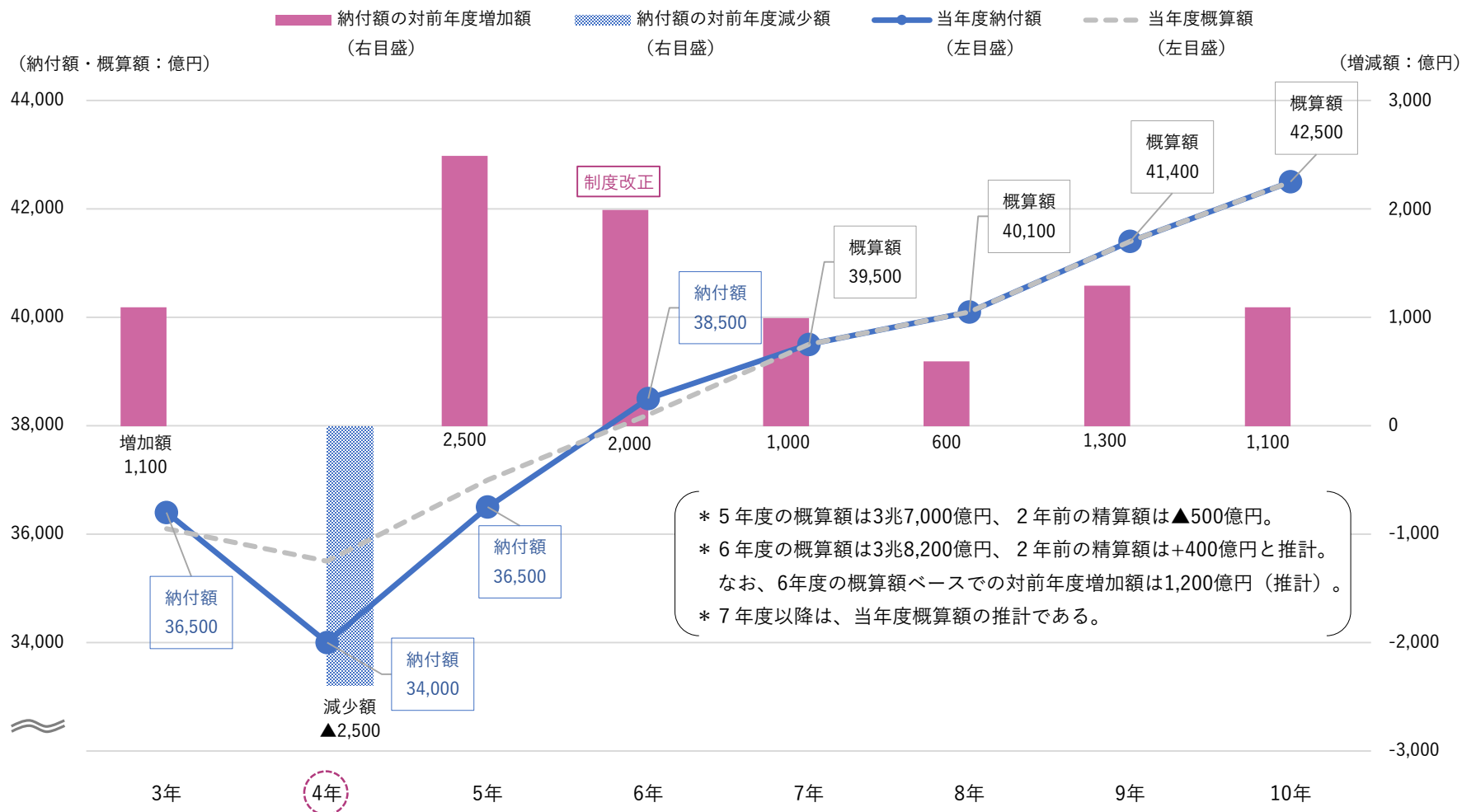
令和4年度決算見込の拠出金及び概算額・精算額

	令和4年度 決算見込	令和3年度 決算	対前年度比	
			増減	伸び率
納付金額 (①概算額+②精算額)	3兆4,057億円 ↑	3兆6,515億円	▲2,458億円 ↑	▲6.7%
①当該年度分の【概算額】 (※2年度前の実績値に国が示す伸び率を乗じて推計した当該年度の値をもとに算出)	3兆5,484億円	3兆6,168億円	▲684億円	▲1.9%
②2年度前分の【精算額】	▲1,445億円（返還） (※新型コロナウイルス影響前の概算額と影響後の確定額の差)	330億円（追徴）	▲1,775億円	—

注) 端数処理等の関係上、合計が一致しない場合がある。

【参考②】 高齢者拠出金の動向と今後の見通し（粗い試算）：令和3年度～10年度

高齢者拠出金の動向と見通し（粗い試算）（単位：億円）



1. 加入者数（2024年度概算額ベース）と標準報酬総額（2024年度見込）を固定したごく粗い試算である。
2. 当年度納付額 = 「当年度概算額」 + 「2年前の精算額」（*2年前の精算額 = 「2年前の確定額」 - 「2年前の概算額」）
3. 納付額の対前年度増加（減少）額 = 概算額の対前年度増加（減少）額 + （2年前の精算額 - 3年前の精算額）